

静私心たより



- 海外研修報告
- 教育研究大会
- 特集その1(ごっこ遊び・劇あそびのすすめ)/長田 安司
- コミュニティ「保育の窓」
- 絵本の紹介/学研
- もの思い(青島こども園・クリストファーこども園)
- 健康随想/栗山 恵
- 広報委員回想録
- 1年間のナイスショット特集



NO.176
2016③
Spring

海外研修報告

期間 ■平成27年8月29日(土)～
9月15日(火)18日間
場所 ■フィンランド共和国
ポフヤンマー県ヴァーサ市

フィンランドの幼児教育制度及び教育事情がどのように展開されているのかを学ぶために研修生4名を派遣しました。研修生からの報告です。

また、ヴァーサ市の視察団も初めて本県を訪れました。

沼津聖マリア幼稚園

間島 詠美



森と湖と妖精、オーロラ、そしてサンタクロースが住んでいる国。フィンランドは夢のような国というイメージしか私はもっていませんでした。しかしここまで注目される国に至るまでに、長い間強国の脅威に晒され、自国を持つことができず苦難の道を歩み、19世紀になりようやく独立国となった歴史を知った。国について語る先生方の強いまなざしから、自分の国に対しての愛国心の強さをひしひしと感じた。平和というのとは当たり前で守るのではなく、自分たちで守りつくり上げていくもの。それは教育も同じで、その歴史があつてこそその生きる力の育成国をあげて子ども達を育てていく社会環境の充実など、日本に比べ教育に関してのモチベーションの違いを思い知らされたような気がした。

生きる力の育成の1つとして、ヴァーサ市は

フィンランド国内でも幼児期から言語教育に力を入れている。そのため、大人は母国語であるフィンランド語とスウェーデン語の他に英語を加えたトリリンガルもしくは、それ以上のマルチリンガルが大半を占めることに驚きを隠せなかった。身につけた言語スキルを活かし自信を持って世界に羽ばたいていく。日本には諸外国に対応できる教育が必須だと感じた。

一方、日本にも他国に誇りを持って伝えられる独自の伝統文化、豊富な自然が身近にあると思う。それらを上手く生かし保育に取り入れ、自然の有り難さや、自国の文化に誇りを持ち大切に守っていく意識を身につけていけたらと強く感じた。

ただひとつ、どの国に於いても、子どもの成長を願う気持ちは変わらない。どのような環境下でも互いの命の尊さを感じながら、国の特性にあわせ教育環境を生かした保育をしていくことが、私たち保育者にとって必要な課題なのではないだろうか。まずは、私たちが生活を取り巻く色々な物事や日本の歴史文化に興味関心を持ち、子どもたちに伝える伝道師になること、そして自分自身が探究心を常に持ち、子どもが幼稚園に来ることが楽しみにするような環境作りを第一に過ごしていけたらと心から思った。



認定こども園みのる幼稚園 田中亮輔

フィンランド、ヴァーサ市。今年度も昨年度同様、このヴァーサ市にて研修を行わせて頂きました。出発前の事前研修では、昨年度の研修報告とは違ったものを見た、体験したいという思いで研修生みんなが話し合っており内容を深めていきました。幸いにも私自身が英語を少し話せるという事もあり「フィンランドにおける幼児教育とは何か」「さらに日本との幼児教育の違いとは何か」を会話の中から深く探れたらいいなという思いが私の中にあり、教師との会話の中から見えてくるものがあるのではないかとこの研修を通して、自分自身のテーマでした。



実際に、フィンランドの教育現場に入ってみると、まず始めに驚いたことは子ども達がよく歩くということでもあります。昨年度の海外研修報告でもあったように、フィンランドでは森での園外活動が多くあります。しかしそれだけではなく、園周辺の施設(徒歩40分圏内)をうまく利用しており、例えばサッカースタジアムや水泳場、また図書館などを使う際、必ず歩いて移動していました。遠い場所は徒歩40分ほどかかり、歩いて移動する中で、子ども達が様々な発見をし、保育者がそれに對し丁寧に受け答えをしている様子が多く見られました。

森での活動では、自由に活動する中で自然を大切にすることが大切と保育者は語っていました。



全体を通して強く感じたことは、「teaching」ではなく「playing」ということです。私が研修を行わせて頂いたクラスの教師に、「幼児教育とは？」と質問したところ、ほぼすべての教師の方たちが「teaching」ではなく「playing」と答え下さいました。何かを教えるということではなく、子ども達が遊びながら何かを発見し、それを自分の知識として蓄えていくことが大切であり、その中で教師がサポートしていくことが重要であるということに改めて強く感じました。

今回の研修を通して、日本ではできない貴重な体験をさせて頂きました。この体験を少しでも、今後の幼児教育に生かしていけたらと思います。

常葉大学短期大学部附属こども幼稚園 松浦秩保子

フィンランドでは「暗記する知識」ではなく「生きるための知恵」を重視しています。知識をどのように考えどう使うかという応用力。まさに生きる力を養う教育だと感じ、幼児教育が具体的にどのような展開されているのか学びたいと研修に臨みました。



OECDにおける学習到達度調査(PISA)では常に上位に位置するフィンランドの読解力。高い読解力は絵本環境にあるのではないかと興味深く思っていました。今回の視察で大きく3つのことを学びました。1つ目は「対話力」。考える力を大切にすることで、自分が考えたことや感じたことを話し、コミュニケーション能力や自己肯定感の高い子どもが育っていました。2つ目に「聞く力の高さ」。落ち着いた雰囲気の中で興味深く耳を傾け、想像力を働かせ世界観を感じていることが伝わり、聞く力の土台が考える力の基盤へと繋がるのだと思います。3つ目には「公共図書館の利用」。徒歩で図書館へ行き、1人



10冊程度借りることもあり、幼い時から自ら選択し絵本に触れる機会が多く、また図書館が身近にあるという点で「読書は心地よく楽しいもの」と子ども達に定着しているとのこと。国土の70%が森林といわれているフィンランド。1年を通じ森からの学びを重視しています。9月にはベリーを収穫し、頬張りながら森の中での遊節を満喫していました。経験を通して季節の変化を肌で感じ、実りの恵みへ感謝するそうです。また、仕掛けのない自然環境の中で知恵を生かした遊びが発展し、遊びの中から様々な学びを吸収し、たくましく生活していることを感じました。

フィンランドの先生方のお話で、「幼児教育で大切にしていることは考える力、マナー、尊敬、自信を持つ、社会性」だと答えてくださいました。目先の出来る出来ないで判断するのではなく、その子が様々な学びに出会い、自立につながる援助をしていくことが教師の役割であり、「生きる力を培う」という言葉の重みを実感した有意義な研修でした。

焼津豊田幼稚園

清野美栄子

福祉に手厚い男女平等の国、フィンランド。この北欧の国は、国際的な学習到達度テストで常にトップレベルと言われています。果たして、子ども達ほどのような環境で生活しているのだろうか。教師は子どもたちどのようにかかわっているのだろうか。期待と少しの不安を胸に、私の研修はスタートしました。

園に一步足を踏み入れると、そこはゆったりと包み込んでくれるような温かい空気が流れていました。部屋の中は、シンプルな素材・色合いで統一され、まさに北欧デザインそのもの。センスの良さに驚かされました。また、季節を感じる自然物がうまく部屋の中に取り入れられていて、自然を愛し、自然のルールにした



「よ」という言葉が心に残っています。日本もフィンランドも目指す教師の姿は同じだと感じました。この言葉を心に留め、今回子ども達や先生方をはじめ多くの方々とのかわりの中で感じたことを、自分自身や環境に合わせて出来ることから少しずつ始めていければと思います。

がって過ごしているような和やかさも感じました。現地での園生活を見る限り、日本のような一斉活動は少なく、子ども達は自由であり、遊びのリズムもスペースも友達や教師とのかわりも、自分自身で選択していました。ここでの「自由」は、何でもありというものはなく、ひとたびトラブルが起これば教師が登場し、「意見と理由」が求められます。遊びや活動の中で、子ども達がどんな意見を言うのも自由ですが、必ず理由が求められるのです。

就学前の段階から自分の意見を表明することを大切に、年齢に応じて理由づけも求めていく。そんな教師と子どもとのやりとりがとても印象的でした。ここでの教師の役割として、1日の流れを作ることだけでなく、「いま、ここ」という瞬間に「どうして?」「何で?」と投げ掛けていくことで子ども達の主体的な気づきを促していく教育的配慮が感じられ、改めて私自身学ばせていただいたように思います。

フィンランドヴァーサー市視察団の訪静

平成27年9月30日から10月6日にかけて当協会が海外研修生を派遣しているフィンランド共和国ヴァーサー市から視察団が来日しました。

視察団はヴァーサー市幼児教育部長と幼児教育保育施設の園長の計4名で、静岡県内の幼児教育施設や保育施設を精力的に視察しました。

10月1日にヴァーサー市視察団の参加を得て開催したワークショップ形式の研修会では、協会から38名が出席しお互いの教育について特徴や課題を意見交換しました。その夜には歓迎レセプションを開き、交流を深めました。



静岡県私立幼稚園教育研究大会《全県大会》

平成28年2月27日、グラントホテル浜松に於いて、静岡県私立幼稚園教育研究大会が開催され、県下11地区から約70名の先生が参加されました。

開会式は水野明浜松地区長の開式のことばで始まり、相田芳久理事長の主催者挨拶に続いて、永年勤続教職員表彰がありました。永年に亘り幼稚園教育の職務に精励され、私立幼稚園の発展に尽力された148名の方々に表彰状が授与され、受賞者を代表して八坂幼稚園の千葉可奈子先生が謝辞を述べられました。

続いて、優秀教員表彰が行われ静岡豊田幼稚園の井上和子先生が受賞されました。

この後、静岡県文化・観光部総合教育局長の鈴木一吉様、浜松市子ども家庭部長の伊熊規行様から県知事及び浜松市長の祝辞をそれぞれいただき、幼稚園讃歌を全員で合唱し開会式を終了しました。

開会式に続き、静岡文化芸術大学学長の熊倉功夫先生を

お迎えして「食事作法と食育」という演題で記念講演が行われました。元々は無防備な時（食事・排泄・睡眠等）を見られることが恥ずかしいと思うが、その時を他の人と共にすることで親しくなる。食事を共にすることはそうした意味でも大切にされてきた。



その時、人に恥ずかしいところを見られるから、食べ方は美しくしなければならぬという気持ちで食事作法の原点であると説明されました。子どもの食体験については、色々な食べ物を経験し、苦手なものにも挑戦することで味覚が広がり、将来の豊かな食生活を送れるようになる。特に和食を伝え、特徴を伝えてほしいとの事でした。

東部地区

運動遊びによる園児の心身の成長
外遊びの充実と「からだ」の育ちから教育課程を考える

双葉幼稚園

本園では子ども達が日々伸び伸びと園生活を送る中で教育目標に基づき習い事やオペレッタ等、様々な行事や活動を行ってきました。

ところが、平成23年に東日本大震災が発生し地震と津波による甚大な被害が生じた為、海岸近くに位置する本園も園児数が減少する等の影響を受け、以前の様なカリキュラムで保育活動を進めて行く事が困難となっておりました所、今回の研究指定園の依頼を頂き、園として再度教育課程を見直していこうという結論に達しました。

教員同士で話し合った結果、運動遊びの楽しさや重要性を伝え存分に遊ばせたいという目的の元、助言者として常葉大学準教授である遠藤知里先生をお招きし、研究を進めていく事となりました。

1年目は、9月26日に助言者である遠藤先生を当園へお招きし第1回目の研究会を始めました。まず始めに当幼稚園のこれまでの取り組みを確認し、当園のいい所、変えたい所を共有。運動遊び、からだ作り関連する各学年の取り組みの共有や



る3月までの間、普段の保育や生活発表会等の行事を通して育みたい「からだ」の有り方を確認。また、「からだ」の育ちに対する価値観や大切にしている事が見えてきました。

2年目に入ると今までの記録の取り方を変え、1週間の保育で起こったエピソードを詳しく書く実践記録を取っていき、やってみたい事、やると良いと思う事を積極的に試し、子

年間行事予定の見直しをしました。またそこから子どもの「からだ」が表現する事の中で子ども達の成長を感じた場面を付箋に書き壁へ張っていくミニ記録を行い1年目の終わ



もの動きをよく観察して子どもの姿・やり取りから大切にしたい事を研究会で教職員同士でしっかりと話し合い、双葉幼稚園として大切にしていきたい事を丁寧に確認する作業を行っていくことで何が身に付き、育ち、変わり、大切にするかを考え、これからの幼稚園での保育の見通しができました。



また戸外遊びやボール遊び、製作活動等、普段の保育や生活の中から大切にしている「からだ」の体験を確認し、領域の「表現」の「目標」を明確にしていき組み込んでいく事で、今回の研究の最終目標でもある教育課程の見直し、完成へと向かうことが出来ました。

中部地区

主体的な遊びを目指して
子ども一人一人の思いを理解し、遊びを支える適切な援助を考える

若竹幼稚園

加藤先生(山梨大学)から「主体的、主体性」という言葉を色々な場面で何気なく使っているが、その意味をきちんと理解



していなくてはいけないと指導していただきました。主体的とは何をやるか決まっていらない状況で自分で考えて判断し行動する事、これに対して主体的とはやるべきことは明確でその行動を人に言われず率先して自らやる事と考えました。「主体性」を職員間で共通理解し子どもが「主体的に生きる」という事を次のように捉え、面白いと思つた場面を記録しました。★一人一人が集団の中で責任を持って生きる★子どもが集団の中で自分の居場所を作る★どんな些細な事でも一人一人が輝く場面を作る★自分が主人公になる保育をイメージする。この事を意識しながら記録を職員間で話し合い、議論分析しました。ここからの学びとして「子どもの主体的な遊びを深める為の保育者の援助」を①子どもの声を活かされる保育②子どものイメージを膨らませる働きかけ、声掛けをする ③子



どもの考える力、工夫する力を引き出す「教師の援助3原理」としてまとめ、わかつた事を教育課程に取り入れていきました。研究を通して、子どもの主体的な遊びから協同性への繋がり、子どもの主体性を望むのであれば保育者がまず主体的である事、教師間の同僚性の重要性を実感し今後の園内研修に活かしていきたいと思えます。

西部地区

人とかかわる心を育む

人とかかわるのつみかさね 幼保連携型認定こども園の利点を活かして

しらゆりこども園

幼保連携型認定こども園に移行して

3年。試行錯誤の毎日で、まだまだ軌道に乗ってきたとは言えないが、幼保連携型認定こども園として取り組まなければならぬことは何か?を考へ、「教育・保育課程」「学年別(年齢別)指導計画」の見直しと「異年齢児保育」「食育」をさらに深めるための実践、研究を重ねてきた。

今では当たり前のように見



乳児から幼児が共生する環境から生まれる成長は、まさに「心」の成長だと感じた。

そして、食育の面では農作物が成長する様子を目にしながら育てることで、食べ物への愛着や好き嫌いをなくすきっかけになったり、収穫したものが調理されて美味しくいただくまでの過程を知ること、自然や人に感謝の気持ちをもつことができるのだと実感した。さらに、保護者にも園での取り組みを伝えるとともに、「食育」の大切さを理解してもらったことで、保護者の「食」への考え方も少しずつ変化がみられるようになり、成果を感じた。

今後も当園の特色を活かしながら、「人とかかわる心を育む」保育の研究を深めるとともに、保育者も保護者も子どもと共に成長できることも園となるよう、努力を重ねていきたい。

ごっこ遊び 劇あそびのすすめ

認知・非認知スキルを高める
教育活動としての「ごっこ遊び・劇あそび」



社会福祉法人同志舎
共励保育園 理事長

長田 安司

長時間保育をはじめとする労働対策中心の保育施策が日本の活力を失っていく構図「保育園のパラドクス（逆説）」を新聞紙上で発表。2013年「便利な保育園が奪う本当はもっと大切なもの」を上梓。誤った国の保育施策を厳しく指摘した。
2013年BSフジ・プライムニュース「待機児童ゼロへ急改善 市長が語る横浜方式」に出演。「待機児童を解消したところで、問題が解決されるのか？」と疑問を呈し、子供の視点からの発言で話題となる。
毎年2月に開催される保育展では、遊びを通して学ぶ「総合保育」を公開。0歳から5歳までの連続した子供の発達を保障する保育実践は保育関係者に高い評価を得ている。

自己紹介

2013年。暮れも迫った12月。その方は、突然共励保育園にやってきました。拙著「便利な保育園が奪う本当はもっと大切なもの」を読まれ、是非話をしてほしいということでした。午前中から夕方4時までの7時間、がらがら声で熱く保育・子育て問題を語られ、たくさんのお子に関わる貴重な資料を残して、嵐のように帰っていきました。

浜松市にある「いぬかい小児科医院」の犬飼先生でした。

犬飼先生は私の本をたくさん読まれた専門家や政治家、行政の方に紹介してくれました。その犬飼先生の取りなしで、私は浜松市や遠州地区の幼稚園の先生方に共励保育園が考えている事、実践していることとお話しする機会を得ることができ、今回は「静私幼だより」へ寄稿させていただくことになりました。

共励保育園は、昭和29年創立で、東京都八王子市にあります。先代の長田萬作は創設者で私の父です。戦後の混乱が過ぎた頃、保護司の仕事に携わっていた関係から、幼児教育の大切さを痛感し保育園を始めました。

その共励保育園を引き継いで、保育・教育の質を高める努力を重ねているのが二代目の私です。

共励保育園は、父の時代から幼児教育には関心を持っており、その昔、保育園の監査で「保育園に教育は必要ない！」などという指摘をもらつたとき、父は心底腹が立ち、その監査官に反論したそうです。そんな父の血を私も受け継いでいて、行政指導には単に従うのではなく、現場が抱えている問題をフィードバックすべく率直に話し、指導の参考にしてもらうようにしてきました。

「指導するのが私たちの仕事だ！」と上からの方針

を押しつけようとする指導官もおりましたが、共励保育園は「現場のことが分からずに適切な保育施策は生まれない」という信念を貫き通してきました。そのような背景から生まれたのが拙著「便利な保育園が奪う本当はもっと大切なもの」です。

保育園のジレンマ

ノーベル経済学賞を受賞したジェームズ・ヘックマン教授は「幼児教育」が人生を変え、家庭環境の強化が子供の成長を改善することを示しました。その中で非認知的スキルの役割が重要であると述べています。

非認知スキルとは、記憶・知識・情報関連以外のスキルで、感情、柔軟性、粘り強さ、対人コミュニケーションといったものです。



ハーバード・ビジネススクールのクレイトン・クリステンセン教授は、その著書『イノベーション・オブ・ライフ』で子供や家族のことを後回しにするなど警鐘を鳴らしています。特に子育て期における母と子の「言葉のダンス」※1（母と子との何気ない対話や言葉のやりとり）について、脳科学や発達心理学的な見地から、子供の認知発達に深く関連していることを指摘しています。

両氏の指摘を幼児教育や保育の視点から捉えれば、子供たちの認知・非認知スキルは母子における関わりが源だと言いうことができます。更に言えば、自然なお産、母乳育児など、母子の絆（ボンディング）を基盤にした子育ての大切さを、私たちは再認識する必要がありますということなのです。

ところが保育園での0・1・2歳保育は、この大切な母子の絆を弱めてしまう可能性がります。仕事をしながら子育てをする親、とりわけ母親は仕事と子育ての間にジレンマを持つことになってしまいます。

このことを強調し過ぎると、働き方の見直しや育児休業などが中途半端な日本の制度では、かえって災いも大きくなってしまいますので、多くの保育者はそ

の点について語りません。しかし、本来であればそうしたジレンマが起きないような社会制度にしないてはならないのです。

このジレンマを解決するには、国の保育施策が見直されることが必要です。子が親を必要とする時期には、親が安心して子育てに関わることができるようにしながらはなりません。つまり、「子育ての時間」を保障する働き方や保育制度が求められるのです。

州の経済財政問題を解決するために企図されたカナダ・ケベック州の「全員保育プログラム」※2（<http://itsumikakafuda.com/child/Quebec.html>）参照）は、15年の社会実験を経た結果、不安で暴力的な子供たちをたくさん生み、犯罪率は隣接する他の州やカナダ全体のデータと比較して有意に高いという統計データを示しました。この事実を考えれば、保育を単に労働施策や経済施策の一貫として捉えることは誤りであり、ケベック州の社会実験は日本の保育制度に対する「エビデンス」※3を伴った大いなる警鐘」と受けとめることができます。

さて、次回からは、そうしたジレンマを持った保育園が、どのように子供たちの保育・教育を実践しているか、とりわけ人生における「幸せな成功」につながる非認知スキルや社会的な力の育成にどのように関わっていくか、共励保育園が実践している「こころ遊び・



劇あそび」を通して、その具体的な方法と考え方をお伝えしていこうと思います。



※1 「言葉のダンス」と「仕事の話」（イノベーション・オブ・ライフより）

「仕事の話」とは、「お昼寝の時間よ」「車にのりましょう」「牛乳を飲んじやいなさい」といった単純で直接的な会話のこと。

「言葉のダンス」とは、くだけた感じで思ったことを口にし、子供がしていることや、親がしていること、しようと思っていることについて、あれこれ話すもの。「今日は青いシャツを着る、それとも赤いシャツにしましょうか?」「今日は雨が降るかしらね」など、子供に「もしよかったら」「どうだったらいいと思わない?」といった問いかけなどを含むもの。正に非認知スキルを高める会話のこと。

現在の日本の保育施策はケベック州の「全員保育プログラム」と同じ内容を持つものと考えられます。

※2 ※3 エビデンス＝科学的な根拠をもった証拠



幼稚園教諭になって

認定こども園
東海大学付属幼稚園

有賀 詩織

幼稚園に就職し1年が過ぎようとしていきます。幼い頃からの夢であった幼稚園教諭になれたという嬉しい気持ちの反面、年少児2クラスの副担任となり、両方を十分に見ることが出来るのかという不安もありました。

入園当初、給食でなかなか野菜を食べることができず、残してしまいうちの子どもがいました。どうすれば食べられるようになるのかを担任の先生と一緒に考え「がんばりカード」を作りました。すると、今まで自分で食べようとしなかった子が「今日は野菜を食べよう」と言っている！見ててね」と言ってきたのです。子どもは頑張りや、やりきった自信に満ちた姿を見て、私は嬉しい気持ちでいっぱいになりました。この子の頑張りには周りの子ども達にも良い影響を与え、今ではクラス全員が好き嫌いをせずに皿をピカピカにする事ができるようになりました。苦戦している友達がいたら「がんばって！」と応援したり、給食を完食すると「がんばったね！すごい」と言っていて一緒に喜ぶ姿も見られるようになりました。これからも、工夫を重ねつつ子ども達の成長を見守っていきます。



の関わりはこれで良いのか？等、後ろ向きの事ばかりを考えてしまうことがありました。園長先生をはじめ、先輩の先生方からの指導やアドバイスを何度か受けているうちに、私自身が笑顔で元気に挨拶をしたり積極的に子どもと関わったりすることが大切なのだと思えるようになりました。まだまだ失敗して悩んだり落ち込んだりすることもありますが、失敗からの学びを活かせるよう、自分なりに考え、力になるよう努力していくつもりです。

私にとって一日一日が学びや発見の連続です。子ども達が全力で遊ぶ姿や活動に一生懸命取り組む姿など、子どもの成長を間近で見ることが出来る幼稚園教諭は、最高の仕事であり誇りに思っています。来年度に向けてピアノや手遊びのレパートリーを増やし、保育の中で実践しているよう努力します。そして、これからも子どもと共に成長し、先輩の先生方のように子どもと同じ目線に立ち、子どもの気持ちに寄り添える幼稚園教諭を目指して頑張ります。

幼稚園教諭になって

みのり幼稚園

久保田 碧

幼稚園の頃、大好きだった優しく安心できる存在の先生。そんな先生に憧れて私は幼稚園教諭を目指しました。夢が叶い、期待に胸を膨らませて迎えた一年目は年少組の担任となりました。私自身初めての幼稚園生活に不安と緊張でいっぱいでした。しかし、そんな不安よりも日々子ども達の笑顔や成長を身近で見ることができ、喜びと一緒に共有できる毎日が楽しく「今日だろう」という思いで充実した楽しい生活を送っています。



気持ちに寄り添っているとつい「子ども達にどうしたら楽しく幼稚園生活を送ってもらえるだろう」「幼稚園大好きと思ってもらうにはどうしたらいいのだろう」と考え、日々悩む毎日、いざやってみると緊張や不安でいっぱいになったり、うまくいかなかったりと自分自身の未熟さに落ち込む事がたくさんあります。しかし、子ども達の笑顔が見れた時、野菜が食べられるようになった、何かができるようになったと一緒に喜びあつた時などやりがいを感じることが出来ます。「碧先生大好き」と言ってくれたとき嬉しかったことになり「頑張ろう」と思うことができます。

自分のできる範囲で、子ども達の成長を間近で見ることが出来る幼稚園教諭は、最高の仕事であり誇りに思っています。来年度に向けてピアノや手遊びのレパートリーを増やし、保育の中で実践しているよう努力します。そして、これからも子どもと共に成長し、先輩の先生方のように子どもと同じ目線に立ち、子どもの気持ちに寄り添える幼稚園教諭を目指して頑張ります。

思います。そして、優しく時には厳しく的確なアドバイスをしてくださる先輩の先生方がいるからこそ私自身が成長していけるのだと思います。これからも子ども達の素敵な笑顔がたくさん見られるよう、日々学び成長し、子ども達の気持ちに寄り添える笑顔溢れる先生になれるよう頑張っていきたいです。



保育の窓 コミュニティ

年長児との1年

認定こども園
新間杉の子幼稚園

鈴木千紗

幼稚園教諭になって3年目、今年初めて年長児の担任をさせて頂いています。年長児は活動する事が多く、初めて経験する事ばかりで、忙しい毎日を送っています。そんな保育の中で今まで気づけなかった事にも気づけるようになり、子ども達からも勉強させてもらっています。

年長児の担任になつて感じたことは子ども達の成長の早さです。昨年からの持ち上がり子どもとのお付き合いです。年中時には見られなかった、自主的に自分達で何らかの目標を作り活動する姿に驚き、それを認めながらクラスをまとめることの難しさを感じています。

1学期はクラス作りのとても大切な時期なのに、隣のクラスと比べている私がいまいました。クラスには先生と子ども達が、自分達で作ったそのクラスのルールがあり、隣のクラスの子どもの違いに大きな差を感じました。先輩の先生に毎日のようにアドバイスを頂き、クラスの子ども達と向き合ってみて課題が見えてくるようになりました。

2学期は運動会や生活発表会がありとても忙しく、以前とは違う個人



のいい所が見え課題などもはつきりしてきました。行事を通して学年、クラスがまとまり、集団に対しての意識が高まりました。年長という集団の中で子ども同士がお互いにしっかりサポートしあっている姿には感動しました。

現在の私は、活動量、仕事量も多く、目の前のことについていっばいになっていきます。先輩の先生は次の活動、次の行事へと頭の中が切り替わっていきます。自分に余裕のない時は保育もうまくいかず子ども達も楽しんで生活出来ていない事がわかります。色々な所に目を向け常にアンテナを高くし自分に余裕をもって保育をしていく事の大切さを知りました。

3学期になり、卒園が近づく子ども達の課題を少しでもクリアできるように、自分は今なにか出来るだろうと考え、子ども達が「幼稚園は楽しかった」と思い卒園が出来る様に、自分自身も悔いの残らないように保育をしていきたいと思えます。

残りの三ヶ月間、子どもたちと毎日笑って過ごしたいです。

子ども達と共に

須津幼稚園

後藤みはる

「先生」と呼ばれて、気づいたら35年。振り返ってみれば、長いような短いような年月です。

勤務している園の今年のPTA会長さんは、私が「先生」になって初めて担任した子どもでした。どんな大人になるのだろうかを送り出した子どもが、素敵なお父さんになり、自分の子どもの為にと園に協力してくださっています。今日の前にいる子ども達も、いずれは素敵なお父さんお母さんになり、どこかの園の保護者になっていくと思うと、人としての根っこを育てる私達の仕事の素晴らしさと責任の重さを改めて感じます。



した。保護者の皆様には、まだ若いから仕方ないとお許しいただきながら、「先生」としてのあるべき姿や、子どもの立場、保護者の立場に立つことを少しずつ覚えてきたように思います。

私も今では、若い「先生」を指導する立場になりました。子ども・保護者・同僚の立場になって物事を考え、相手が本当に望んでいること、相手や自分がどうしたいのか、どうしたらいいのかを若い先生達と一緒に考えられる「先生」になれたらいいなと、日々勉強の毎日です。

「先生」になったばかりの頃は、子ども達の為に私にできることは何でもしようと思え、考えなしのことでもあったこともあり、考えなしのことをしては、子ども達や先輩の先生たちに迷惑をかけたことも多々あります。

生は、『子ども達』『保護者』そして『同僚』です。気づかされ教えられたことを、子ども達・保護者・同僚に返していく。その気持ちを忘れずに、これからも幼稚園教諭として子ども達と共に歩んでいきたいと思っています。

学研 いちにちといちねん 絵本シリーズ

教育みらい 時間の変化を”探し絵”とともに感じていく絵本



たてものができるまでの一年を
”探し絵”を通して、触れていく一冊！

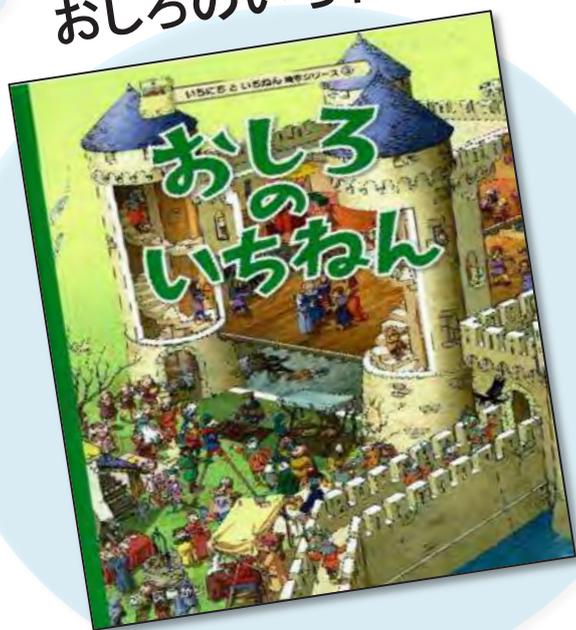
こうじげんばのいちねん

学校を建てる建築現場の一年をおった探し絵絵本。
前の建物を壊すことから始まり、地面を平らにし、
柱を建て、屋根をのせ、最後に黒板をかけて完成です。
テレビ局も取材にやってきました。食べてばかりいる
作業員や、迷い込んだ動物たちを探してみよう。

価格：1,080円(税込)

おしろでの一年の生活と
”探し絵”のコラボ絵本！

おしろのいちねん



お城の一年を追った、探し絵絵本。新しいお城に引っ越して
きた公爵たち。バザーをしたり、競技会をしたり、楽しく暮らして
いると、どこかから敵が攻めてきた！無事クリスマスを迎えら
れるかな？ネズミの親子や、ろうやに捕まった人が何してる
かも探してみよう。

価格：1,080円(税込)

どうぶつえんの一日の活動と
”探し絵”のコラボ絵本！

どうぶつえんのいちにち



賑やかな動物園の一日を描いた、楽しい探し絵絵本。
今日は動物園に新しい動物がやってくる日。
飼育員さんや獣医さんは大忙し。親子連れや遠足の子
どもたちなどもやってきて、賑わってきました。
そのうち、サルが逃げ出して大騒ぎ…。

価格：1,080円(税込)

子ども達と一緒に お父さんも成長

青島こども園
PTA会長

桐田 昌邦

我が家には2人の娘がいます。結婚して5年ほど経つてからようやく長女が生まれました。

その約2年後に次女が生まれてきてくれました。2人が生まれた時の嬉しかった気持ちを今でも昨日のことに思い出します。その長女も今は青島こども園の年長さんで、今年の4月からは小学1年生になります。もともと育児に関して、子どもが中学生になればお父さんなんか相手にしてくれなくなるのではと思い、子どもが小さいうちは休日子ども達と遊ぶ機会を増やしたり、キャンプなど色々なことを体験させたいと思っていました。1年ほど前に今年度のPTA会長の打診があり、こども園での子ども達の活動も間近で見ることが出来るいい機会だと思い、引き受けることにしました。

引き受けるに当たり、育児について悩んでいる時期でもありました。当時子どもに対してイライラして怒鳴ってしまい、反省することがしばしばありました。子どもは泣きわめいても結構立ち直りますが早いです、こちらはかなり自己嫌悪に陥ってしまいます。このままではいけない



と思い、何冊かの育児書を読んだりして色々な方法を実践しました。上の子ども下の子もそれぞれ個性があり、得意なこと苦手なことが違うのでそれらを理解し、イラつとしても10秒我慢して子どもの目線になって話しかけたり、話を聞いたりすることを心掛けています。

また、子どもの成長とともに自分も何か頑張ろうと思つて、3年ほど前からマラソンを始めました。夏にはランニングから家に帰ってくると、長女に「パパ、くさ〜い」と言われますがめげずに頑張っています。

PTA会長としてはたいしたこともできず役員の皆さんに助けられてばかりで、果たして役に立ってたのだろうかと思うこともありますが、長女が「お父さんはPTA会長だから、夏祭り

太鼓をたたいたり、運動会でみんなの前でしゃべったりするんですよ」と言われた時には、子どもなりにお父さんの活動をわかってくれていたのでPTA会長のやつてよかったと思えました。

PTA会長は3月で終わりですが、これからは父親として子どもと一緒に成長していけるように頑張っていきたいです。

園と関わり 知るここの大切さ

聖隷クリストファー大学附属クリストファーこども園
保護者会会長
大森 類

一昨年、英オックスフォード大のオズボーン准教授らによる「雇用の未来」という論文が話題になった。あと10年で「消える職業」「なくなる仕事」702業種すべてについて、コンピューターに取って代わられる確率を計算し、まとめたものである。結論として、ロボットやコンピューターは「芸術などのクリエイティブな仕事」に



不向きであることから、人間は機械に出来る仕事は機械に任せて、より高次元でクリエイティブな事に集中できるようになる。そこで高次元でクリエイティブなスキルを身につけられなければ、失業するリスクが高くなるというものである。何の職業がなくなるかは別として「芸術などのクリエイティブな仕事」といえば、幼児期の特に遊びの中から培われることの影響が大きいのではないかと私は思う。友達と一緒に泥だらけになって遊ぶことや、ケンカしたりしながら人間関係を学ぶことなどの経験が、人格の基礎を築くという大人になるにつれて利害関係が生じる場面が多くなり、本音で意見や自己主張な

知ることが出来るチャンスがあり、わずか20分程の車中だが、父と息子の二人だけの大切な時間を持つことが出来る。他愛ない会話から、彼の成長や

心情の変化を感じることが出来た。息子と二人だけの会話を楽しむ大切な時間も、あと僅かだと思つと寂しくなるが、成長というものはこういうことなのだろう。息子の様な職業に就くか分らないが、人間として幼児期に培われた心の軸にブレる事なく、成長に伴った新しいスキルや知識を身につける事で対応することが可能ではないだろうか。

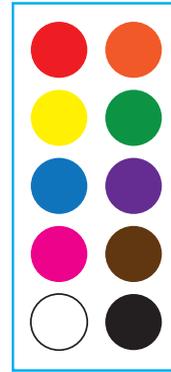
色彩から学ぶ(その2)

NPO法人 色彩心理診断士協会 COMPAS 代表理事

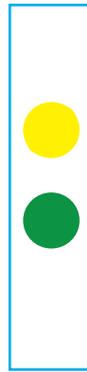
一級建築士 栗山 恵



前回私が色彩にかかわり始めた理由をお話ししました。今回は色について科学的にアプローチします。その前に今回もまず2つの質問をします。



Q1 10色の中から気になる色を1色選んでください。答()



Q2 黄色と緑の2色のうち気になる色はどちらですか？ 答()

毎回2色ずつその色の持つ心理的側面を解説致します。10色の色が出そろった時、選んだ色をメモしておくことで貴方の心が変化している事を実感していただけたらと思います。単純な色の選択ですので、必ずしもその色の意味が今の心の状態を全て表現しているとは言い切れませんが、まずは読んでいただいた方が、色で心の状態がある程度解る・・・ということをご理解いただければ幸いです。

色はなぜ見えるのでしょうか？この当たり前すぎて考えたこともない質問に答えられる方は意外と少ないようです。私もそうでした。色を見るということは光源(太陽光や照明など)があり、それが照ら

し出す物体があり、それを見る眼(視覚)の3つが揃ったとき成立します。幼い頃かくれんぼをして押入れの中に隠れた経験や月が出ていない夜の散歩の体験を思い出してみましょう。物体や色は感知できませんし、目隠しをしても同様です。私たちが色を見るためには光が必要ですが、では、光とは何なのでしょうか？

実は光というのは、電気と磁気のエネルギーが波となって空間を伝わっていく電磁波の一種です。電磁波と聞いてピンとくるものはラジオやTV、携帯電話に利用されている電波、電子レンジに利用されているマイクロ波、レントゲンのX線などがあります。その他お肌に大敵の紫外線、この時期とても必要な赤外線なども電磁波の一種です。この電磁波のうちのある一定のエリア約380～780nm(ナノメートル)だけが、人間の眼で感知できる光であり、これを可視光と呼びます。可視光の外側にある紫外線や赤外線は人間の眼では見ることができません。

そして眼で見た情報は、視神経を通じて脳に伝達され、脳が色の判断をしており、太陽光のように様々な色の波長がほぼ均等にバランスよく集まると色みを感じさせない無色の白色光となります。

太陽光が物体に当たると表面で反射するか吸収されるか、その物体を透過するかのいずれかの経路をたどります。光を通さない物体に太陽

光が当たると反射か吸収されることとなりますが、白く見える物体は太陽光のほぼすべての波長を反射するために白に見えます。黒く見える物体はほぼ全てを吸収するので黒く見えます。赤く見える物体は、赤以外の波長を吸収し、赤の領域の光を多く反射するので赤く見えます。

眼で見た情報は視神経を通じて脳に運ばれ、見た色と後天的に学んだその色を表す言葉により、この色は「赤」この色は「青」という判断をしています。

ところで、色がなぜ心理や感覚感情と結びつくのでしょうか？それは視覚情報が、間脳と呼ばれる脳の中でも中心部奥にある部位に届き、さらに中脳へと続く部分に情報を伝えるといわれていて、自律神経や体温調節、情動や意欲をつかさどる大脳辺縁系と呼ばれる部分の近くを通るため、色による刺激がこれらの神経に影響を与えると考えられているからです。

COMPAS(色彩心理診断士協会)で講演会を行う際、赤と青をそれぞれ1分間見つけた後、脈拍をとる実験を行うと青の時より赤を見た後の脈拍が増える結果が断然多く得られます。

これは、可視光(電磁波)の「赤」色の外側にある赤外線は体を温めてくれる効果があり、その赤外線の隣に位置する赤という色もまた青に比べ、赤外線効果を発揮していると

考えられているからです。

赤色が付着した物体は、赤という電磁波を反射しているので、私たちは「赤」という色を見たり、身に着けたり、あるいは近くに赤が用いられていると体温や血圧が上がったり、興奮したり活動意欲が増すという反応が表れ、逆もまた然りというわけです。上手に活用したいですね。

今号は黄色と緑の色の解説です。

黄色は彩度明度ともに高く一番目立つ色です。信号機にもあるように注意を喚起する色として用いられます。集中力、素早い判断、機転の良さ、会話力やコミュニケーション能力を意味しています。子どもらしさ、目立ちたがり、新しいものが好きな傾向や希望を表現してくれたりします。マイナス面としては軽率、ごまかし、皮肉、移り気などの意味を表すことがあります。

緑は中の広い色で、黄色に近い緑から深緑まで意味が大きく異なります。ここで載せている緑は、調和、平和、中立、穏やか、新鮮、成長、豊かさ等を意味することが多く、マイナス面としては優柔不断、疑いや頑固さ、他人に対しやや批判的な側面を持つという意味を持っています。心はどんどん変化します。選んだ色がその方の性格を表現しているわけではありません。

■(参考資料) ウィキペディア、色彩検定公式テキスト、NPO法人色彩心理診断士協会COMPAS色彩心理診断士養成講座テキスト

広報委員回想録

これまで広報委員会委員として、記念誌作成や広報誌作成などに携わってきた中で、各委員の感じたことや想い出を話していただきました。



後列左から 田村委員、石川委員、山田委員、青山委員、伊藤委員
前列左から 武藤副委員長、座光寺委員長、宮澤副委員長



後藤副委員長



小関委員



足立委員

協会パンフレット作り

協会パンフレットの作成において、恐竜シリーズの誌面の寄稿者、宮西達也先生を訪問取材した際、描いたばかりの原画を見せていただいたり、アイデアを聞いたり、等身大の人のぬいぐるみを見せてもらったりしました。作家の取材は初めてであり、裏の話も聞いたりして、とても有意義でした。宮西先生は心温かな人柄だと感じました。

認定子ども園訪問

子ども・子育て支援新制度移行の年に、園舎を全面的に改築し、素晴らしい環境でスタートした認定子ども園を訪問させていただきました。感動することや学ぶことがとても多かったです。良い体験をしたと思っています。

「静私幼だより」街ぶらり

静私幼だよりの「街ぶらり」の取材で、世界遺産になった富士宮浅間大社と白糸の滝を流れる清流の冷たさ、富士宮の牧場を取材に行ったときに食べたソフトクリームと昼食の富士宮焼きそば名店の香り豊かなB級の味は今も忘れられません。

静私幼だよりの「街ぶらり」の企画では、伊豆・葦山・天城沿線を取材しましたが、江川邸や葦山反射炉などの史跡や浄蓮の滝などのおすすめスポットを巡る中で、見聞を広めることができ、とても楽しく過ごすことができました。

教員養成校訪問

いくつかの教員養成校を訪問させていただきましたが、皆さんとても協力的でした。どこも女子学生が多くてやる気があり、幼稚園教諭志望者がまだまだいることを感じました。神奈川県内に在学し

ている本県出身者は、地元（静岡県内）志向が強いとの指摘を受けましたので、そちらにもアンテナを向けていく必要があると感じました。

五郎丸選手インタビュー

時の人、五郎丸 歩選手を取材できるということですぐさま参加の返事をさせていただきました。本人が練習場で練習する姿を間近でみさせてもらい、例のポーズも取材をさせていただきました。その後、取材をさせていただきストイックな姿勢にさすがアスリートだなあと感心した事を覚えています。とてもいい刺激になりました。座光寺委員長の絶妙なタイミングでの取材才フアーに感謝いたします。

「静私幼だより」作り

年3回発行の協会広報誌「静私幼だより」の作成は初めての経験でありましたが、前任者にも助けていただいたり、寄稿の依頼で各園の皆様協力していただきここまでこれたと思います。自分の園は小規模で掲載記事対象者がいないため、他の園に依頼することが多かったが、皆様が快く引き受けてくださり大変感謝しております。

懇親会

各園の園長先生たちとの懇親会では、ざつくばらんに情報交換をすることができました。保護者や園児への応対を始め各園の様々な実情がよくわかり、とても参考になりました。

その他

活動の4年間で特に思い出に残ったことは、当学園の子どもたちの写真を一杯掲載していただいたことです。ナイスショットでは10枚以上、表紙も2回飾らせていただきました。また、静私幼の紹

介用リーフレットの表紙も、2回連続で採用していただきました。子ども達の真剣な眼差し、愛くるしい笑顔、躍動感溢れる瞬間を、仕事に追われる教職員の皆様に見ていただき、少しでも和んでくれたならば嬉しく思います。

教員養成校訪問

教員養成校を訪問した際、養成校の考え方や学生が就職に対してどのように考えているかを伺う中で、ピアノの試験があったら受験しないとか各園園長に対する関心度が高いことなどがわかり、園長としてもしっかりとしなければならぬということを認識しました。また、実施記録簿の作成において、学生に負担をかけ過ぎないようにすることも必要であると感じました。学校では学生に公立園を勧められるとも聞いたので、私立園をより一層PRしていく努力が必要であると思いました。

40周年記念誌作り

40周年記念誌の発行にあたり、サッカー全日本代表キャプテン長谷部選手の通っていた幼稚園にリポートしてきました。母親や先生にもインタビューして、小さいころの幼稚園での様子などが聞けました。私はサッカーが大好きで、とても興味深く取り組むことができました。そして、本当に楽しい思い出となりました。

おめでとうございます!!

ヤマハ発動機ジュビロ、五郎丸 歩選手サイン色紙を抽選により3園にプレゼント決定しました!

- さくら幼稚園
- 高洲幼稚園
- あけぼの幼稚園

1年間の

ナイスショット特集



避難訓練 津波だ！逃げろ！！



いっぱいお米ができるかな



ホクホク、おいしいね！



いただきまーす！！



マグロっておおきいな～



きた！きた！上手にとれたよ！



えのぐあそびだいすき～～



泥んこ大好き



ぼくたち仲良し3人組♪



わあ～！！あてられた！！



里山での冒険



アスレチックだーいすき!



つめたいね

われないようにしようね!



お餅つきの仕上げは、僕たちにおまかせ



おいしくて

顔を見合わせ

にこっ!



園庭に登り木がきた!!



トンネルは大渋滞!!



藤枝駅まで散歩したよ



いっけー!



落ち葉あそび 楽しいね♪



迷路ができたー! なんか怪獣みただねー!

ナイスショット

静私幼だより

NO.176

2016.03.15

発行人／相田 芳久
編集人／盛光寺 明
広報委員会

発行所／静岡県私立幼稚園振興協会
〒420-0853
静岡市葵区追手町9番26号
静岡県私立学会館内
TEL.054(254)6820・FAX.(255)3694

http://www.shizushiyou.or.jp/
E mail: office@shizushiyou.or.jp

印刷／(株)三創 レイアウト・イラスト／村松麗子



このQRコードを携帯電話の「QRコードリーダー」で読み込めば、協会HPの携帯サイトにそのままアクセスできます。



高〜い塔の完成だ



よし 鬼ごっこするぞ〜!!



キレイな水大発見



きょうりゅうの卵の中でごろごろ



ひなたぼっこ



みんなでニコニコワハッハ



お芋さんどこで食べようか



ごはんだーいすき!!



赤〜いジェットコースターみたい



ふくわらい

【編集後記】

これを書いている頃、朝には氷点下までさがるほどの寒さなのだが、すでに3月の「サクラ開花予報」が発表された。12月から1月初めの暖冬で、奄美・沖縄を除けば福岡が一番早く開花するらしい。鹿児島より早い。鹿児島は、木の芽の冬眠が十分でなく寝不足だからだそう。我々だって、園児たちだって寝不足ならあまり調

子が出ない。この「静私幼だより」が届くころには桜が咲き始めるだろう。「桜たち、寝不足は解消できたのかなあ?」今、こたつの中でお湯割り片手にわくわくして待っている。

広報委員 / 認定こども園しょうえい幼稚園 石川 望